



社団法人 日本理学療法士協会

富山県士会ニュース

平成19年度 No. 3 (通算 107号)

総会員数 361名 (休会42名)

全109施設



新 清光 大会長 あいさつ



10月14日 高岡市ふれあい
福祉センターにて

当士会はじめて県に要望書提出する	2
第13回 富山県理学療法学会について	3
職能局アンケート結果概要	4
理事会報告	5~6
富山市民ふれあい広場に参加して	6
第3回 学術研修会	7
リハビリテーション研究懇話会	7~8
第7回 循環器講習会	8
県士会ボーリング大会	9
地区連絡会	9
この人に直撃インタビュー	10~11
士会員の独り言	12
事務局インフォメーション・士会ニュース(会報)の名称募集について	12
会員異動状況・おわびと訂正	13
編集後記	14
平成19年度賛助会員名簿	15
平成19年度求人広告	16~19

2007.12.25

社団法人 日本理学療法士協会
富山県士会

〒936-0023 滑川市柳原149-9
富山医療福祉専門学校 理学療法学科 内
☎ (076) 476-1716

発行人：塚本 彰

編集：中谷 郁

印刷：志貴野苑

士会URL: <http://toyamapt.umin.ne.jp/>

事務局アドレス: toyamapt-office@umin.ac.jp

当士会はじめて県に要望書提出する

富山県知事 石井 隆一 様

県民の医療福祉サービスの向上に向けての理学療法士採用に対する要望書

要望の趣旨

現在、私たち理学療法士は厚生センター等の事業（下記表）等に協力しているところですが、今後、県としてより県民のサービスを向上するため、理学療法士の採用が不可欠と考えられます。

次の事項について要望いたします。

社団法人日本理学療法士協会富山県士会
会長 塚本 彰

平成 19 年 8 月 24 日



富山県滑川市柳原 149-9
TEL 076-476-1716

記

1. 厚生センターに理学療法士を配置してほしい。
2. 県の関わりが大きい難病相談・支援センター、介護実習普及センター、福祉カレッジ等の機能をより充実するために理学療法士を常勤として採用してほしい。

表 1（厚生センター関係）

難病療養者に対する在宅支援の協力
特定疾患患者療養相談会の協力
難病患者等ホームヘルパー養成研修会の協力
難病患者及び家族に対する研修会の協力

表 2（県社会協議会関係）

福祉用具・住宅改修研修の協力
福祉用具・住宅改修相談の協力
介護入門講座の協力
サービス提供責任者研修の協力

県への要望書

だ現場の状況からの問題提起がないこと。県としての介護予防などの事業計画の作成中でとても人事まで関心がいかない状況でした。しかし事業内容にPTが不可欠であることを指摘することで県が関心を示すとの感触を受けました。

私たちは今後、県の事業内容を吟味するとともに、県民の医療福祉に私たちPTのサービスがいかに必要かをいろんな方面から訴えていく必要があると感じました。

今回の要望書提出は今までの県へ挨拶にいくレベルから意見を云う集団としての最初の一步、意義のある大きな一步と云えるのではないのでしょうか。（田村）

お盆も過ぎた8月24日、塚本会長はじめ滝田副会長、田村副会長、城戸事務局長4人で県庁へ先に要望書（別紙）の回答を求めるとの出向きました。厚生部長が県議会対応で不在とのことで厚生企画課の新庄主幹・課長補佐、医務課の林課長補佐が応対されしばし意見の交換をしました。

先に提出した要望書に対しては文書で返答はもらえず、口頭で今のところ新たにPT採用するまでの仕事量まで達していないのでその必要性までは認識していない。したがって即対応するまでは至っていないとのことでした。しかし県が進める事業を円滑にするため内容を吟味し、是非、具体的な提案をいただきたいとのこと。そのような内容で約1時間ばかり話し合いが持たれました。

県の行政官はこちらの意見に冷静に耳を傾けメモされていました。た



8月24日 県厚生企画課の主幹課長補佐、
医務課の課長補佐との意見交換

第13回 富山県理学療法学術大会について

第13回 富山県理学療法学術大会長 新 清 光

黄葉の候、後援者各位、賛助会員、そして富山県士会員各位のご尽力によりまして、第13回富山県理学療法学術大会を平成19年10月14日に高岡市ふれあい福祉センターで盛況のうちに終えることができました。

一重に関係各位のご支援、ご協力の賜物と、深く感謝しております。

準備委員会一同に成り代りまして感謝の心を表します。誠にありがとうございました。

この学術大会の目的は富山県内の理学療法の学術向上に寄与し、理学療法士の知見を広めることとして開催いたしました。

そこで、本学会のテーマは『人としてのあり方を見つめる』～人と人をつなぐもの～といたしました。

人との接遇の原点は何であるかを見つめ直す機会であったと推察いたします。

特別講演として、富山国際大学准教授 大谷孝行先生をお招きし、森田療法と内観法について先生自らの体験を交えて講演していただきました。

さらにユーモア精神について「ユーモアとは『にもかかわらず』笑うこと」とアルフォンス・デーゲン氏の言葉を紹介いただき実りある講演でありました。

前学会からわずか7ヶ月という短い期間にもかかわらず、一般演題が18題あり、演題発表をいただいた会員の方々には、日頃の研究成果発表の場として頂き、活発な議論や意見交換をしていただきました。

学会に参加していただいた皆様方にあらためて、御礼申し上げます。



大谷孝行先生の特別講演



準備委員の皆さん

職能局アンケート結果概要

「訪問リハビリに関するアンケート」報告

平成18年4月より医療で受けられるリハビリが制限され、大半の患者さんは介護保険制度下での通所リハビリ・訪問リハビリでの継続が求められました。しかし、その受け入れ体制についての情報は不十分な状況でした。

そこで、受け入れ先の一つである訪問リハビリを実施している施設の状況を把握するために「訪問リハビリに関するアンケート調査」を行いました。

結果は、回答があった施設の約3割が訪問リハビリを実施していました。しかし、今後の事業規模拡大については、やや消極的な意見が多い状況でした。

*回収率……82%

(発送141施設……PTが在籍する施設76、老健35、訪問看護ステーション30)

(以下にアンケートの一部を掲載します)

1) 訪問リハビリを行っていますか 1.行っている⇒32% 2.行っていない⇒68%

《行っている施設》

- いつ頃から? 1. H18.4.1以前:77% 2. H18.4.1以降:23%
- H18.4の法改正で訪問回数等に変化は? 1.増:45% 2.減:3% 3.変化無し:41%
- 訪問リハを始めたきっかけは? 1.以前から検討:58% 2.法改正:21% 3.他:21%
- どちらの保険を適用? 1.介護:43% 2.医療:8% 3.介護と医療:49%
- 今後、訪問リハビリに関して規模拡大や新しい職種募集等の予定は?
規模拡大予定: 1.ある:23% 2.ない:77% 新しい職種募集予定: 1.ある:13%

《行っていない》

- 今後、訪問リハビリを行う予定は? 1.ある:6% 2.ない:71% 3.検討中:25%

2) 困っていること・意見など

- ・ケアマネや病院の方々の訪問リハ認知度が低いようで介護保険の利用が伸びません。
- ・入所、通所のリハビリ業務を行うのに精一杯で訪問リハビリをする余裕がありません。
- ・訪問リハのニーズは多いのに実施してもらえない事業所がない。
- ・PTやOTがNsのように独立開業して訪問リハを行えるシステムをつくるべきと思う。

アンケートの結果より、市町村別の訪問リハ実施施設数は以下の通りです。

朝日町: 1施設 黒部市: 1施設 魚津市: 3施設 滑川市: 1施設 上市町: 2施設
立山町: 1施設 富山市: 13施設 射水市: 5施設 高岡市: 3施設 砺波市: 2施設
小矢部市: 2施設 南砺市: 3施設 氷見市: 1施設 計38施設

理学療法士需要調査報告

全国的には理学療法士養成校が今もなお増えている中、県内では毎年30名程度の新人の方が就職されています。しかし、今後の動向についてはよくわからない状況です。

そこで、現状を把握するために、県内において需要調査を実施しました。

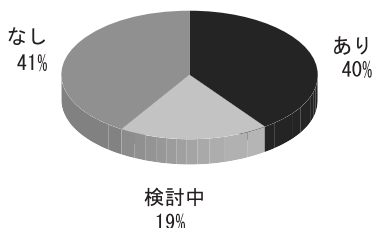
結果は、回収できた施設が99施設であったとはいえ、平成20年度の求人予定数は約40名程度であり、単年度としては概ね例年通りと思われます。

また、職場の意見として(理想数)はかなりの人数が求められていました。

*回収率……47% (発送:210施設、回答:99施設)

(以下にアンケートの一部を掲載します。)

1)平成20年度求人予定(H19年7月現在) 2)平成19年度現在数、20年度求人数、理想数(H19年7月現在)



	常勤PT	非常勤PT	常勤OT	非常勤OT	常勤ST	非常勤ST
現在数	194	10	155	3	39	2
求人数	40	10	24	2	10	2
理想数	284	25	188	4	70	4

平成19年度 第6回 理事会報告

日 時：平成19年8月29日（木）18:45～
場 所：富山市民病院リハビリテーション科
出席者：塚本 田村 滝田 島倉 川合
寺田 堀尾 森山 城戸 有島(書記)

<報告事項>

- 事務局報告事項：事務局郵送物、公文書発行について報告。
- 第2回学術研修会報告（骨関節疾患研究会）：
平成19年7月1日(日) 厚生連高岡病院にて開催。「膝関節機能を考える 特に高齢者に視点をあてて」をテーマに、福井大学医学部附属病院の嶋田誠一郎先生をお招きし、ご講演いただいた。参加者は93名。
- 小研修会(理学療法基礎系研究会)：平成19年8月24日(金)「筋力増強運動の基礎と臨床」をテーマに、富山協立病院にて開催。参加者は33名。
- 富山県への要望：平成19年8月24日に塚本会長・田村副会長・滝田副会長・城戸事務局長の4名で県に県士会の要望を提出。要望内容は1、「厚生センターへのPTの配置」2、「県社会協議会へのPTの常勤としての採用」について。現時点での受け入れは困難であるとの回答であった。

<検討事項>

1. ケーススタディ(中枢神経系研究会)：平成19年9月8日 八尾総合病院にて「片麻痺の評価と治療」をテーマにワークショップを開催予定。
2. 第3回学術研修会（物理療法研究会）：
平成19年9月30日 富山医療福祉専門学校にて「痛みに対する徒手療法」をテーマに、実演を交えた研修会が開催予定。
3. 地区対抗ボウリング大会交流会について：

士会員の交流を目的に平成19年9月22日に地区対抗ボウリング大会および交流会を開催予定。地区対抗とすることで交流を活発にし、地域連携を推進する。

4. 東海北陸ブロック理学療法士協議会議題の提出について：今回は議題の提出を行わないことが決定された。
5. 35周年記念事業について：準備委員長を次回理事会までに決定する予定。
6. 平成20年度富山県理学療法学会について：大会長を次回理事会までに決定する予定。

平成19年度 第7回 理事会報告

日 時：平成19年9月27日（木）19:00～
場 所：富山市民病院リハビリテーション科
出席者：塚本 田村 滝田 島倉 川合
寺田 堀尾 増山 城戸 小西(書記)

<報告事項>

- 事務局報告：PT協会・他県士会・関連団体からの事務局宛郵送物、公文書発行、会員異動について報告。
- 卒後教育研修会報告：平成19年6月24日(日)に富山医療福祉専門学校で開催された。参加者は75名であった。
- 臨床実習教育研修会報告(卒前教育部)：平成19年7月28日(土)・29日(日)に富山県民共生センターで開催。参加者は40名(県内7名、県外33名)。参加費について今後検討する必要があると報告された。
- 呼吸ケア第1回小研修会報告(学術局専門領域研究部)：平成19年8月3日(金)に富山市民病院で開催。参加者は9名であった。
- 理学療法基礎系研究会小研修会報告(学術局専門領域研究部)：平成19年8月24日(金)に、富山協立病院で開催。テーマは「筋力

増強運動の基礎と臨床」。参加者は33名。

○中枢神経系研究会ケーススタディ：平成19年9月8日（土）に、八尾総合病院で開催。テーマは「片麻痺の評価と治療」で、検討会・ワークショップを行った。参加者は31名。

○地区対抗ボウリング大会&交流会報告（福利厚生部）：平成19年9月22日（土）に開催。参加者は、ボウリング大会は20名、交流会は28名。

<検討事項>

1. 第2回小研修会計画（呼吸ケア研究会）：「スクイージングの有効性と問題点～より臨床で生かすために～」をテーマに、平成19年10月5日（金）富山市民病院にて開催予定。
2. 第6回介護老人福祉施設におけるリハビリテーション研修会計画（福祉事業部）：平成19年11月14日（水）にサンシップ富山で開催予定。テーマは「摂食・嚥下障害について」。

3. 「車椅子バスケットに親しむ集い～車椅子バスケットを体験しよう！」計画（保険事業部）：平成19年11月25日（日）に、富山市勤労身体障害体育センターにて開催予定。
4. 情報提供に関するアンケート結果（医療保険部）：インターネット環境が整っている施設はメール優先で行う方針。今後自宅会員への情報提供の検討が必要。
5. その他：「35周年記念事業」について、大会長・準備委員長が決定。県の学術大会と合同で開催する。今後、日程について検討する。

富山市民ふれあい広場に参加して

福祉事業部 小山 寛子

平成19年9月8日（土）、富山市総合体育館横の富山駅北親水広場において、第26回富山市民ふれあい広場が開催されました。富山市社会福祉協議会が主催するこの会に参加し、地域の多くの方々に理学療法をPRするため、私たちは体験コーナーにて高齢者疑似体験、車椅子体験を実施しました。

当日は、蒸し暑く、高齢者疑似体験に挑戦された若い男性の方は私たちに、視野が狭くなりかすんで見えるゴーグル、手首・足首に重錘バンド、10kg近いベスト、おまけに肘・膝の動きを制限されるサポーターを装着され介助されながらよろよろと歩き、「つらいですねえ、いい体験させてもらいました。」と汗だくになりながら語っておられました。

毎年開催されている富山市民ふれあい広場には福祉に関わる様々な方々が参加しておられ、体験コーナーには手話体験、点字・点訳体験、盲導犬歩行体験、セラピー犬体験、福祉機器体験、大道芸等他にもいろいろな体験が実施されていました。私自身も活動の合間にいくつかの体験を行うことができ、とても有意義な1日を過ごすことができました。

また、今回、富山市民ふれあい広場へ参加することで福祉と理学療法について考えるよい機会となりました。



車椅子体験



高齢者疑似体験

研 修 会 報 告

第3回 学 術 研 修 会

平成19年9月30日(日)、富山医療福祉専門学校において、専門学校金沢・リハビリテーション・アカデミーより加藤謙一先生をお招きし、専門領域研究部物理療法研究会企画 第3回学術研修会が開催されました。今回の研修会は「疼痛に対する徒手療法」と題し、講義・実技形式にて、運動学的評価を基にした徒手療法について教わりました。研修会には物理療法研究会部員の先生方を始め、富山県内の病院・関連施設から多くの先生方が参加されました。

今回は日頃対象となることの多い「肩関節」、「腰」に対するアプローチとして、徒手療法の中でも、主にマッサージ手技についての講義・実演が成されました。今回教わったマッサージの種類は、横断マッサージ、機能的マッサージについてです。横断マッサージとは、筋腱移行部に対しその走行に直交してマッサージを行うものです。また、機能的マッサージとは、目的筋のストレッチにその筋腹のマッサージを加えたものです。

午前中は肩関節へのアプローチを中心に、午後は腰部へのアプローチを中心に、講義・実演、実技練習という流れで研修会が進んでいき、あっという間に研修時間が過ぎていきました。そしてマッサージ手技自体よりも、「どの部位の」「どの運動で」「どこに原因があるか」をいかに評価し、治療としてのマッサージとつなげるかという考えが非常に大切であることを再認識いたしました。今回の研修会で学んだマッサージ手技の概念と、評価から治療へ一連の流れとしてのアプローチの考えを再度整理し、日々の臨床活動の中で応用していきたいです。

最後に今回の研修会で講師をして頂いた加藤謙一先生、研修会を企画して頂いた物理療法研究会の先生方に感謝いたします。(山森 克洋)



加藤謙一先生と真剣に学んでいる会員の皆さん

リハビリテーション研究懇話会

平成19年10月21日(日)、サンシップ富山において、第36回富山県リハビリテーション研究懇話会が開催されました。

開会の挨拶で、懇話会会長の富山県高志リハビリテーション病院の野村院長から、「研究懇話会は学会でなく、病院・施設や職種の垣根を取っ払っての意見交換の場としたい。」等の話がありました。

富山県理学療法士協会富山県士会の会員からは、自由演題で厚生連高岡病院・銭谷嘉純先生が「大動脈疾患リハビリテーションの現状について」、富山大学附属病院・石黒幸治先生が「立位による荷重が同側ヒラメ筋H波に与える影響」、黒部市民病院・松野晃久先生が「大腿骨頸部骨折の地域連携パスの導入と現状把握」の演題発表がありました。主題演題 ～在宅リハビリの困難事例と在宅へ繋げる取り組みの紹介～ では厚生連高岡病院・中村拓人先生が「S状

結腸癌患者に対するリハビリテーションの経験 ～周術期チームアプローチを通して～」、砺波市訪問看護ステーション・柴田孝博先生が「ガススプリング式座面昇降車椅子により移乗動作能力を維持できた症例 ～移乗困難となった後天性表皮水泡患者に使用して～」の演題発表がありました。

発表演題計10題中5題が理学療法士県士会員のものであり、多くの活躍が伺われました。また、参加者は医師・看護師・OT・ST等80名であり、PT以外の他職種の視点から質疑応答もありました。

秋の行楽シーズンであり、前週に富山県理学療法学会があったためか、もしくは秋の富山県リハビリテーション研究懇話会には講演がないためか、参加人数が若干寂しいものとなった気がいたしました。(荒木 悦子)



会員の発表

第7回 循環器講習会

厚生連高岡病院 大崎 泰信

平成19年11月4日(日)、厚生連高岡病院において、第7回循環器講習会を開催しました。今回は、「循環器疾患と糖尿病のリハビリテーション」と題し、合併症としても多い糖尿病について講義を加えました。参加者は、30名あまりで急性期病院からの参加者が多くありました。

午前中は、循環器障害全般を捉えるために基本的な内容から講義を始めました。また、心電図モニターを実際に装着して、記録の解読ポイントについて説明を行いました。

午後は、実際の症例を提示し、心筋梗塞の評価手順や検査データの見方など臨床で役立つような内容としました。さらに、糖尿病の講義では、ジュースを飲んだ前後での血糖値を測定する



血糖値測定中

実技や投薬内容によるリスクの層別化、運動療法についてクイズなどを交えて、楽しく受講して頂けるように工夫しました。

今回、検査データの見方やリスクの層別化など、患者さんを診る前に知っておくべき内容を重視して企画しました。理学療法士が苦手と思われる内容に触れることができ、大変有意義な講習会になったのではないのでしょうか。今後も、臨床で役立つ講習会を開催していきたいと思っております。



土井仁美さんの発表

県士会ボーリング大会

厚生連高岡病院 水口 且久

平成19年9月22日(土)に富山地铁ゴールデンボウルにて開催された県士会のボーリング大会とその後の懇親会に参加しました。

今年度より分けられた富山県の7つの地区ごとの交流、さらには地区を越えた交流を深める目的で行われたボーリング大会は塚本会長の華麗な始球式で開始され、各地区接戦の白熱した試合となりました。

私も先生方に負けまいとやる気は人一倍だったのですが、なかなかボールがまっすぐに転がらず気づいたらブービー賞を獲得してしまいました…高岡地区の先生方、足を引っ張ってしまいすいませんでした…。

見事に優勝したのは富山北部地区、MVP賞は200点オーバーのハイゲームを行った増山先生でした。

ボーリング終了後は、場所を居酒屋に移してボーリングの反省、日頃の仕事上の話などを肴に2時間半ほどの懇親会を行いました。



MVP賞 増山先生



塚本会長の始球式

今年、新入会員として入会し県士会の研修会などに参加する機会はありませんでしたが、なかなか他の病院の先生方と話す事はなかったので今回、様々な先生方と話す事が出来てよかったです。

今後もこのような会を通して地区ごとの交流はもちろん、県士会の先生方との繋がりがもっと深まっていけばいいなと思います。

最後に今回、企画・運営を担当された福利厚生部のみなさま、参加された先生方お疲れ様でした。

地区連絡会報告

こんにちは 富山南部地区より

代表 池田 裕 哉

7月7日、七夕の日に、富山市のレストランにて、富山南部地区第1回連絡会(懇親会)が行われました。まずは、それぞれの自己紹介を行った後、職場での問題点や今後のPTとは?などというまじめな話から始まり、趣味や恋愛などのプライベートな話まで、参加者は8名と少なめでしたが、約3時間大いに盛り上がりました。

最後に田村 茂 先生にまとめていただき、お開きとなりました。普段は交流することが

少ない他の病院や施設の方と、いろいろと話をする良い機会となりました。



第1回 交流会(富山南部地区)



第一線で活躍している ジャズダンサーPT・藤井雅子さんに聞く

田村 藤井さんこんにちは、今年の夏の活躍みごとですね。

7月オーバード・ホールで井上道義さんの指揮する新日本フィルハーモニー交響楽団との『火の鳥』をソロでの舞い、そして8月は私の地元おおやまで水辺のファンタジアでのダンスとすごいを乗り越して尊敬しますよ。

藤井 いいえそんな

田村 ところでジャズダンスはいつ頃から始めたんですか。

藤井 高校卒業してから、PTの学校への受験勉強とジャズダンスが始まり。大学に入学してからもずーと続けています。

田村 大学にはクラブがあったんですか

藤井 いいえ、部をつくりました。1年生の終わり頃だったと思います。はじめは10人くらいのスタートでした。でも卒業する頃は50人くらいに増え、今じゃ100人位になっているようです。

田村 じゃ藤井さんが初代部長さんだったんだ。じゃ大学祭で活躍したんだ。

藤井 大学祭からイベント参加、そうテレビ、『たけしの元気が出るテレビ』にも出ました。長い時間撮影して映ったのはほんのチョットだけ。でも全国デビューしたのがいい思い出です。

田村 学業とダンスの毎日？

藤井 いいえ、自分の家庭が裕福ではないと思ったのでバイトは、家庭教師とスポーツトレーナーそしてある時はカラオケ店員等、生活費を稼いでなんとか頑張っていました。

田村 大変だったね。大丈夫？身体の方は

藤井 そう4年生の時1回、そして就職してから2回入院してしまいました。

田村 えっ、それは例の難病？

藤井 そう潰瘍性大腸炎でした。

田村 今も仕事にジャズダンスそれも趣味のレベルと言うよりプロレベルでストレスもあり大変と思うけど

藤井 今はちゃんと調整できています。

田村 それを聞いて安心しました。体を動かすことはPTも同じですが、そもそもPTになろうと思ったきっかけは？

藤井 もともと中学生のころ器械体操部にて体を動かすことが得意だったことと、たまたま医薬大生の家庭教師がわたくしにPTに向いていると言われ、いくつかの病院見学して決めました。医薬大病院と厚生連高岡病院のリハビリを見学しました。

田村 そうでしたか。富山市障害者福祉プラザに卒業と同時に勤めて8年どうですか。

藤井 忙しいけど充実しています。

田村 それはよかった。今後の夢はなんですか。

藤井 自分のレベルを上げて理想作品を作りたい。藤井のオリジナル性の高い作品を作りたい。



藤井 雅子先生 近影

田村 常に新たな目標をもって、その目標に近づき到達することをねがっています。最後に藤井さんからPT、若いPTに向けてなにかメッセージありませんか

藤井 そうですね、私生活が充実していたら仕事もうまくいく。集中力がつく。是非充実した私生活を送ってと思います。

藤井雅子さんのプロフィール

- 1973年 富山市生まれ
- 1999年 国際医療福祉大学 卒業
富山市障害者福祉プラザ 就職
江崎ダンスカンパニー所属
日本ジャズダンス芸術協会会員
ジャズダンスを中心に15年ダンスを学ぶ。現在、江崎ダンスカンパニー・アシスタントとして指導にあたる一方、ソロ活動も展開中。なかでもジャンルを超えたコラボレーションに積極的に取り組んでいる。しなやかな身体を駆使したスケールの大きいダンス、繊細で詩的な動きを生かし多彩な表現力で作品制作にも取り組む
- 2003年 日本ジャズダンス芸術協会創立25周年記念公演(東京)
- 2006年 オーバード・ホール開館10周年記念事業『舞台の上の美術館』
富山市ガラス工房吹き場ライブ
- 2007年 新日本フィル交響楽団公演 井上道義指揮による『火の鳥』出演
富山サンダーバーズ応援歌『俺は監督ヤストモです』振り付け等

きんり 富山人 vol. 344

「自からしく」

江崎ダンスカンパニー
藤井雅子さん

オーケストラ、ハバット、影絵とのコラボレーションに挑戦

来月14日にオーバード・ホールで行われる、井上道義と新日本フィルによる大人と子どものためのコンサート「オーケストラと遊びよう」の第二部「音楽の絵本」に、ジャズダンサーの藤井さんが出演する。バレエ音楽「火の鳥」の演奏に合わせて、パペット人物と影絵、そして火の鳥である藤井さんのダンスによって展開されるオリジナルストーリー。「音と視覚で楽しむ」とコンセプトにした高難易度のコラボレーションに期待が高まっている。「出演するまで、どんな舞台になるのか想像が追いつかない(笑)。だけど、その分ワクワクしています!」

格好つけないダンスも好き!「いい!」と聞かせた!

中学で体操部に入ったのをきっかけに、ジャズダンスを始めて15年。現在は「江崎ダンスカンパニー」の一員として公演やイベントに出演するだけでなく、ソロ活動も積極的に行う。民俗楽器やガラス工房の吹き場での即興ライブなど、様々なアーティストとコラボレーションを重ねてきた。ジャズダンスは、ボーイズの格好良さや曲のイメージに合わせた表現が大切で、形がうまいと多分嫌いな。一万、内面を身体で表現するときは「格好つけな自分」を一度断さないといけない(笑)。そんなダンスによる作り方の違いが、難しくもあり美しくもあるんです。全員の舞台では実行も指し、しなやかで力強い持ち味を生かしながら、火の鳥の感情を素直に表現したいと思っています。想像力を掻き立てられたり、心に響いたり、観る人によって授け方は違っても、何かが伝わるように磨きたいです。」

「火の鳥」に励まされて

本誌は理学療法士、仕事から稽古場へ直進する忙しい日々が続いている。そんな中、母練が産んで育てる花や草木に、ふと心惹かれていくという、「一つは一枚、一枚も風も違う」と感動し、あんなにこんな風に私にもこんな面を見せてくれるというのにな、つい見入ってしまったんですよ(笑)。



Profile
ふみい(まご) 富山県富山市。1973年生まれ。高校卒業後より江崎ダンスカンパニーに所属。ジャズダンスを始める。理学療法士として働く傍ら、カンパニーの公演やイベントの他、ソロ活動も積極的に行っている。

Information
「オーケストラと遊びよう」
日時/7月14日(土) 15:00開演
会場/オーバード・ホール
料金は2000円、4000円、8000円(税別)
問い合わせ/076-445-9311(アシスタントカウンター)

6月27日 富山情報より転載

雑誌『富山情報』に藤井さんが表紙に掲載され、驚きと同時にPTの仲間が載っていたことでうれしくなりました。このことを是非、会員に知らせようと正直思いました。

今回は藤井さんの勤務する富山市障害者福祉プラザの機能訓練室にて話を伺いました。飲む席では面と向かってお話できたのに、素面で美女を相手のインタビューは疲れしました。

それにしても多くの観衆の前で音楽を体で表現する芸術ジャズダンス、一度ゆっくり堪能したいと思いました。ちなみに吉岡佳織さんもかなりのレベルの方だそうです。

富山県士会の中にはまだまだ輝いている方が沢山いると思います。是非、連絡ください。話を伺いに参ります。

この企画では誰を直撃インタビューするか、私が独断で今話題になる、なった仲間スポットを当てようと漠然と考えていました。しかしそれでは偏るので編集長・情報局長との意見交換で決めました。当面は今の方針方式で進める予定です。次はあなたかもしれませんよ。



士会員の独り言 社会人になって

大沢野老人保健施設 かがやき 石橋 信志

社会人になって、早2年目を迎えました。

去年は職場に慣れることにいっぱいいっばいで、あっという間に時間が過ぎていったように思います。物覚えが悪いので、先輩方にいつも助けられながら何とか日々の業務をこなすことに追われている毎日です。

そんな日々の中で『時間』というものはとても貴重なものだと最近感じます。社会人になるまでは、こんなことを考えたことはありませんでしたが、今はとにかく何をしても時間が足りないと感じてしまいます（要領が悪いと言えばそれまでですが…）。仕事にしろ遊びにしろ、もっと時間があればなと多々思います。『時間』というものが貴重なものと感じてから、自分の行動が少しだけ変化してきたところがあります。今までであれば、休みの日はお昼頃までゴロゴロして、何もせずに1日が終わっていきました。でも今は、出来るだけ外に出るようにしています。連休があれば県外に遊びに行くなど、以前からみればだいぶ動くようになり、自分の中ではビックリするほど、今までと違う『時間』を楽しんでいます。県外へ遊びに行けば利用者さんとの会話の材料にもなり、何となく一石二鳥という感じで得した気分になります。

来年は社会人として、理学療法士として3年目の年になります。社会人になればそれなりの『責任』を感じることもあります。その『責任』を今後果たしていけるよう、要領が悪いなりに有効に『時間』を使って、少しでも成長できたらなと思います。そのためにもまずは、目の前にいる利用者さんと接する『時間』を大切にしていきたいです。

今回は、山田温泉病院 中島知子さんです。

事務局インフォメーション

職能局の相談窓口

職能に対して、職能局では電話による相談を受け付けています。お気軽に何でもお尋ねください。

電話番号(0765)24-3999 FAX(0765)24-3684

魚津市健康センター 森山まで

E-mail:akira-moriyama@city.uozu.toyama.jp

平成19年度分会費未納の会員におかれましては、協会より通知が届いていることと思っておりますが、速やかにお振込みいただきますよう、ご協力お願いいたします。

その他、理学療法に対しての疑問点は、事務局で相談を受け付けています。事務局までメール等でお願いたします。

士会ニュース(会報)の 名称募集について

情報管理部では、士会員の皆様への情報提供のあり方として、『士会ニュース』を士会活動等の記録を中心とした総合機関紙『会報』とすることになりました。新しく重要な情報提供は『ホームページ』に役割をボタンタッチし、その上もっと緊急性があり、かつ保険制度等の重要な情報提供は『FAX』等のメディアへシフトすることになりました。

そこで、次年度より新たに富山県理学療法士会機関紙『会報(新しい名称)』に生まれ変わります。

その新しい名称を募集します。皆さん！これはという名称をハガキまたはFAXで事務局へ応募お願いします(3月末日まで)。採用された方から抽選で1名に謝礼を差し上げます。

【送付先】

富山県理学療法士会事務局(情報管理部)

〒936-0023 滑川市柳原149-9

富山医療福祉専門学校

理学療法学科内

Tel/fax 076-476-1716

＝おわびと訂正＝

士会ニュースNo.2にて、以下の間違いがありましたので、あわせておわびと訂正させていただきます。

- 16p 17pの塘添誠次先生のお名前が「糖添」になっていました。
- 10pと15pの、北日本新聞の掲載写真が入れかわっていました。誠に申し訳ございませんでした。

編

集

後

記

～編集長から～

• 年々医療や福祉を取り巻く環境が厳しくなり、今年の診療報酬の見直しでも様々な問題が生じています。そんな中、富山県士会から県に要望書の提出を行ったとの話を聞きました。私たちも"しょうがない"とあきらめ、現状を受け入れるだけではなく、その人その人に必要なリハビリやサービスを今後も提供していくためにも、現場から声をあげたり活動していくことが必要な時代になってきたのだと感じさせられました。とりあえず身近なところから、何ができるのか考えていけたらと思います。

さて、今年もあと残りわずか。皆さん仕事や私生活にと、忙しく過ごされているのではないのでしょうか？風邪などひかないよう体に気をつけて、良いお年をお迎えください。(中谷)



～編集部員から～

- 最近、日が暮れるのがはやくなりましたね。でも、クリスマスのイルミネーションのおかげで夜道も気分は明るくなります。(荒木)
- 年末ジャンボ宝くじが発売されました。私は数字選択式宝くじ派なので興味はないのですが…、高額当選したいなあ～。年の暮れです。皆さん、よいお歳を…。(長谷)
- 季節が冬となり寒くなりました。私の財布の中身も寒い季節になってきます。クリスマス、お正月と福沢論吉祥が飛んでいく…。もともと財布の中は、いつも寒いですけど…。(牧野)
- 寒さにめっきり弱い私の冬の必需品は腹巻・ホッカイロ・電気毛布。そんな私の今シーズンの目標は、インフルエンザに負けないこと。予防接種を受けても何故か毎年…。(福島)
- 2008年診療報酬改定の基本方針が出され、リハビリにおいては成果を評価する方向性が示されていますが今後も目が離せません。情報収集と共に理学療法士としての声を出していきましょう！士会活動を大いに活用しましょう！(城戸)
- 巷では賞味期限不正云々で社会的制裁を受けている業者が次々と明るみになっています。賞味期限、昨日までならいいが今日からはもうだめ、これも1日位で『もったいない』という意見が一方にある。以前のように製造年月日をも同時に記載して賞味期限が近くなったら値下げして消費期限きたら本当に焼却できないものか。そう云う自分もそろそろ賞味期限いや消費期限が近いぞと云われそうな昨今です。(田村)